

日本百街道紀行

街道とまちづくり

第3回

歴史都市 高岡

2015年春 北陸新幹線開業！ さあ、新高岡駅から。

たかおか 高岡市長
たかはしまさき 高橋正樹

さあ、2015年春 北陸新幹線開業
新高岡駅から。



はじめに

日本海を望む海岸線から3000m級の山々が連なる立山連峰を見ることができる雨晴海岸は、富山県を代表する景勝地である。昨年11月、女岩を含む雨晴海岸一帯の有磯海を、俳聖松尾芭蕉ゆか



立山連峰を望む「雨晴海岸」

りの「おくのほそ道の風景地」として名勝に指定するよう、文化審議会の答申があった。万葉の歌人犬伴家持は、奈良時代越中の国に国司として赴任した際、多くの歌を残した。家持卿がこよなく愛し、これまでも高岡市民が誇りとしてきた万葉故地であり、義経伝説に彩られた雨晴海岸の景観に今回さらに、「おくのほそ道の風景地」という新たな価値が加わることで、本市の強みである「歴史と文化」が一段と厚みを増すものと感じている。今後は、全国の奥の細道ゆかりの地との連携、交流などを図りながら、「歴史都市高岡」の魅力を広く全国に発信してまいりたい。

歴史都市 高岡

古くは、「関野」と称した荒野に、

慶長14年（1609年）9月、加賀藩二代藩主・前田利長が高岡城を築城し、その城下町として開かれた町が高岡である。その後、利長の死と、元和元年（1615年）の一国一城令による高岡城廃城などに伴い、高岡は急速に衰退していくこととなり、このことを憂えた三代・利常は、元和6年（1620年）に町人の高岡転出を禁止した。さらに、高岡を麻布の集積地とするとともに、魚問屋の創設を認めるなどの商工業振興策を積極的に推進した。利常によるこの「城下町から、商工業の町へ」の転換により、高岡は、物資集散の商都として繁栄した。

一方、慶長16年（1611年）、利長は当時の砺波郡西部金屋より7人の鋳物師を招き、土地を与え

て5カ所の吹場（鋳物作業場）をつくり、諸役を免除するなど鋳物産業を奨励した。これが現在の金屋町の地で、高岡鋳物の始まりである。以来、高岡の鋳物産業は、加賀藩の庇護や町人らの努力により大きく発展し、開町以来の伝統産業として現代に継承されている。



高岡鋳物発祥の地「金屋町」

こうした歴史を背景に、高岡は、多くの歴史的文化的資産を今日まで大切に受け継いでおり、古来からの街道沿いにある、その代表的な資産をご紹介します。

高岡市内を貫通する旧北陸道には、重要伝統的建造物群保存地区に選定されている「山町筋」をはじめ、景観形成重点地区に指定されている「福岡町の菅笠問屋の町並み」、铸物職人の町並みである「金屋町」など、伝統的な町並みや町家が多くあり、歴史的風致が色濃く残っている。



国宝「瑞龍寺」

また、井波道は、高岡城下の中心部から庄川の左岸を高岡の開祖前田利長の菩提寺である国宝瑞龍寺へ、寺町そして神主町を経て井波へと続いていた。国宝瑞龍寺から神主町、北陸新幹線の新高岡駅までは、城下町建設時に整備された庄方用水が街道沿いを流れるなど、歴史的風致が色濃く残る街道である。

一方、海沿いに越中国と能登国を結ぶ道である海浜道は、射水郡放生津（現在の射水市）から小矢部川の河口を舟で伏木に渡り、氷見を通って能登まで通じていた。市内伏木地区は、近世以降、港町として栄えて廻船問屋が多くあった。また、浄土真宗の大本山である重要文化財「勝興寺」があり、これを中心に寺内町が形成されている。これらの遺構は、現在でも多く残されており、冒頭でも紹介した雨晴海岸の景観は、現在でも人々を魅了してやまないものがある。

**さあ、高岡へ 旅は続く、
能登へ 飛騨へ**

平成27年春に北陸新幹線が金沢まで開業する。新幹線が通るルートは、加賀藩・前田家が参勤交代

により江戸と往来したルートと近似している。当時は、12泊13日の行程だったが、新幹線開業後は、約2時間20分で東京と高岡が結ばれることとなる。前述の通り、高岡は、街道筋がもたらす人やモノの交流等から歴史的資産に恵まれており、現在、これらを生かした魅力づくりを進めている。併せて、高岡を基軸に南北に連なる高速道

路網との接続により、北陸新幹線・新高岡駅は、富山県西部地域のみならず、飛騨地方や能登地方（当地では、この3つの地域を合わせて「飛越能地域」と称する）の玄関口となる。これからは、本市で交わる高速交通網が、本市で新たな交流を生み、新たな文化を創造するきっかけを与えてくれることになると期待している。

一口メモ

北陸街道

古代官道の路線を受け継ぐ
前田家の参勤交代路「北陸街道」

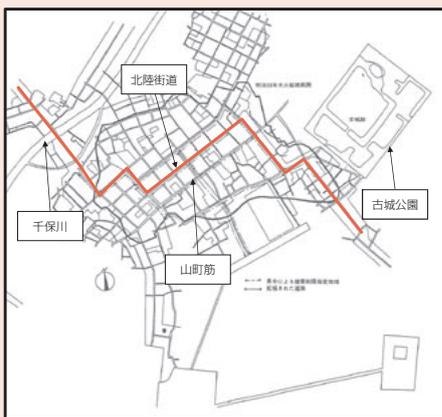
北陸街道は古代からの官道北陸道の路線を継承し、宿駅なども整

備された脇街道であり、北国街道とも呼ばれた。中山道の鳥居本から福井、石川、富山を通り新潟へと至る。

慶長6年（1601年）

に並木、同9年に一里塚が設置され、加賀藩主が多の場合参勤交代路に用いた。

北陸街道の要衝に、慶長14年前田家二代利長によって高岡城が築かれ城下町が営まれた。高岡市の歴史はこれより始まる。



高岡市中心部の北陸街道

企画協力…全国街道交流会議「街道交流首長会」